

紫藤新聞



宮城県白石工業高校 報道委員会

〒989-0203 白石市郡山字鹿野43

TEL0224-25-3240 FAX0224-25-1476

最高賞を獲得

Nikonのコンテストで

Nikonが写真文化活動の一環として発行している中高生フォトグラファー応援マガジン『TopEye』誌のコンテストで、写真部の熊谷昇太君（機械科2年）の作品が最高賞であるTopEye賞を受賞しました。

今回は、熊谷君の他、菊池麻里さん（建築科3年）の作品も準佳作に選ばれ、本校写真部の実力が全国レベルであることをあらためて示しました。

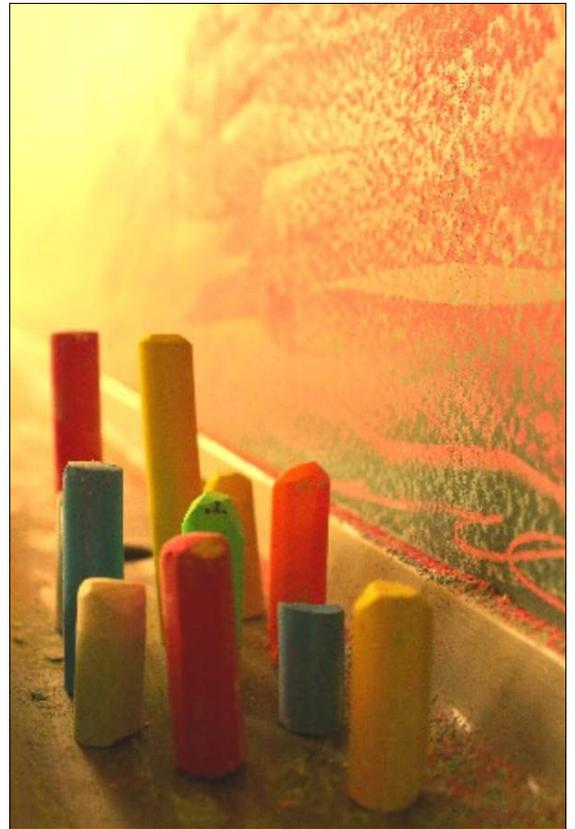


『TopEye』誌は、1979年に創刊された「写真部応援マガジン」で、全国約7000校に無料提供されています。誌上で行われる写真コンテスト「フォトフォトサロン」には、毎回、全国からレベルの高い作品が多数投稿されます。

詳細は、下記URLを是非ご覧下さい。

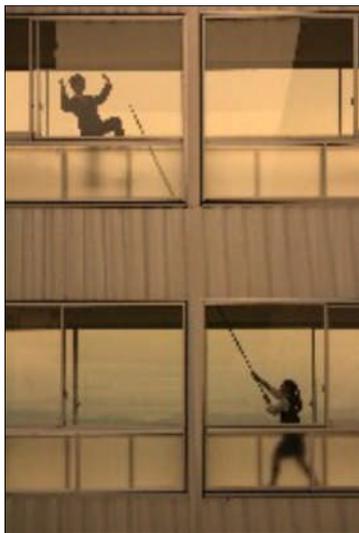
<http://www.nikon-image.com/activity/topeye/pdf/TopEye282.pdf>

TopEye賞



ぼくたちの放課後 熊谷 昇太

準佳作



いたずらの超越

菊池 麻里

熊谷昇太君の話

- ◆受賞おめでとうございます。
- ◆ありがとうございます！ 僕自身まだびっくりしています！
- ◆とてもカラフルな作品ですね。
- ◆チョークたちがそれぞれ持つ「色」が最大限に出せてよかったです。
- ◆どういったことを表現しようと思いましたが？
- ◆チョークたちが持つ個性——色や形や大きさの違い——そのバラバラの個性が僕たち人間にも通ずるところがあるなと思います、表現しました。「チョークたちの放課後」にせず、「ぼくたちの放課後」としたのはそういう意味も含まれています。
- ◆構想・発想はどこから？
- ◆黒板掃除をしている時に、チョークを撮ると面白いのではないかと思いつき、すぐく気軽に撮ってみました。その中でただ撮るのではなく、チョークたちも放課後にチョーク同士でしゃべっているように撮ってみようと思いつき、この作品が出来ました。
- ◆苦心したところは？
- ◆最初に撮ってみたところ、あまり面白くないありふれた作品になってしまったので、方向を変えてみたり、光を多く取り入れてみたり、チョークの並べ方を変えたりと何回もチャレンジしました。とても時間がかかりました。
- ◆これからどんなものを撮っていききたいですか？
- ◆これからも他の人と視線を変えて、どんな作品にも自分だけの工夫を加えて、僕にしか取れない作品を作っていきたいです。これまで以上に写真をたくさん撮って、いい結果を残せるよう頑張ります。